

日本中冷夏で大変というお話しですが、鹿児島は今死ぬほど暑くて牛さんもバテバテです。もちろん獣医さんもバタバタと走り回って大忙しです。さて今月は、予告通り日々の観察についてお話ししましょう。牛飼いさんの仕事で最も大切なのが観察だと言っても過言ではないでしょう。僕のコンサル先の農場でも、1日の仕事の終わりには必ず全頭の間をみるようにとお願いしています。観察は毎日の仕事ですから、下手をすると惰性で済ませてしまいやすいんです。でも、事故が発生するのはそんなときなんですよね。ですから、意識的にきちんと観察していただくために、1頭1頭の間を必ず確認していただくわけです。1頭1頭間を見て回ると、牛さん1頭1頭の状態が本当によく分かるんですね。

元東京食肉市場専務だった西先生は「牛の間はかわいい、とおぼえておきなさい」と教えて下さいました。牛さんの間はつぶらでかわいいのですが、かわいく見えない時があります。たとえば脱水しているときは、間が落ち込んだように見えて異様な感じがしますし、風邪の初期で結膜が真っ赤になるとお世辞にもかわいいとは言えなくなります。また牛さんの気分が優れないときには、なんだか間の回りに張りがなくなって、病気のおばあちゃんみたいな間になります。つまり西先生が言われるのは、牛の間がかわいく見えないときは異常だから獣医さんに見てもらいなさいよ、ということなのですね。

さて基本的な間のお話しをした上で、牛さんのどこに気をつけて日々の観察をするかのお話しに移りましょうか。まずなんと言っても大切なのは、エサによってくるか？ということですね。「そんなことは分かってるよっ」という声が聞こえてきそうですが、僕は現場で何日も食欲の低下した牛さんが放っておかれるのをよく見かけるんです。もちろんまったく餌を食べなかったらすぐに獣医さんを呼ぶのですが、たとえば食欲が500gや1kg減っても「ま、そのうちに喰うだろう」なんて様子を見ておくことはありませんか？肥育牛の食欲が少しでも低下したり、1食喰わないというのは大問題なんです。たとえば、ほんの少し食欲が落ちた時点だったら、胃の動きをよくする注射なんかでも治るはずだったのに、ほったらかしておいたために肝臓まで脂肪肝になってしまい、治るのに時間もお金もいっぱいかかってしまった、なんてことは意外に多いんですよ。今月の別枠コラムでくわしく書いて



おきますね。風邪などの病気でも、食欲が少し落ちたくらいの時ならすぐによくなりますしね。とにかく餌によってくる様子がいつもと違ったら要注意です。早めに獣医さんに見てもらいましょう。なんにもないと言われたら、それでいいじゃないですか。医者とか坊主は役に立たないときの方がいいんだから。

次に耳がたれていないか？も気をつけて下さい。元気がなくなると耳がたれてきますからね。それから風邪ひきなどの時に片耳だけ垂れるようなときは中耳炎の疑いがあります。最近ではマイコプラズマという病原体で、中耳炎から脳炎を起こして死んでしまう場合もありますからね。

それから便の状態。これも重要です。下痢だけではなく色や大きさにも気をつけてみましょう。特に黄色い下痢をして熱が出てくる「代謝性腸炎」なんかは、気が付かないと1日前後で熱が下がるのですが、熱が下がる前に治療しておかなければ、すぐに肝炎に移行してしまって、そうすると治療にも時間やお金もいっぱいかかります。それと、肥育牛のウンコは黄褐色が標準ですが、排便後すぐに緑色っぽく変色するようならルーメンアシドーシスという状態かもしれません。獣医さんに見てもらおうかトルラミンみたいな胃の薬をあたえた方がよいでしょう。

あと、呼吸が速くないかも気をつけておきましょう。今みたいな夏場は、代謝不全のある牛さんや熱射病の時に呼吸が速くなりますし、冬場だと肺炎の子牛で呼吸速拍が見られます。

去勢牛の場合には、毎日陰毛も見っておきましょうね。陰毛に白い粉が吹いていたなら尿石症に注意しなければいけません。尿石症は、もしも発見が遅れたら全廃棄になりますからね。逆にオシッコの多すぎる部屋もチェックしておきましょう。カルシウム欠乏や骨軟症では排尿量が増える場合があります。まあ、増体型の牛さんはおおむねオシッコは多いですけどね。

意外に重要だけど見過ごされているのは、足の状態です。歩き方とか関節の状態ですね。これは獣医師でもなかなか難しいので、うちで研修を受ける獣医さんにもしっかりと訓練してもらっています。前足の膝が、ほんの少しまっすぐじゃない、立っているときに膝が震える、歩き方が何となくおかしい、後足の球節が通常より少し立っている感じがする、なんていうのが骨軟症の初期症状です。あれっ？もうページがなくなってきた。A Bさん



ごめんなさい、今回は少しオーバーさせてね。この調子で行くといつまでもおわんないから。と、言うわけで続きです。骨軟症はどここの農場でも必ず見かけます。そして僕の経験では、この状態の牛さんをきちんとチェックして対処すれば、100頭出荷あたり200万円程度のもうけが増えます。足の変化を早く見つけるコツは、正常な牛さんをしっかり観察して、その姿を覚えておくことです。そうすれば、それ以外の歩き方や関節の状態の牛さんは異常であるということになるでしょ？

それから中期以降の牛さんでは、食欲はあるのにやせてきた牛さんはいないか？瞳孔が開いている牛さんはいないか？も注意しましょう。どちらもビタミンA欠乏症の初期症状です。初期に処置すれば、早く治るし使うビタミンAの量も少なくて済みます。

あと、爪の伸びが早い牛さんは、第一胃内が酸性化して(ルーメンアシドーシス)いる疑いがあります。そういう牛が増えてきたら、ツッパリ(ロボット病とも言う。食餌性蹄葉炎という病気です。)が出てくることが多いのです。蹄葉炎というのは蹄の中に炎症が起きて痛くて歩けなくなる病気ですが、もし一度発症したらなかなか治らないし増体も著しく低下しますからね。

ほかにもいろいろあるとは思いますが、要するに牛さんへの愛情を持って観察してあげる、ということです。愛する人のことはよく気が付くのと一緒ですね。

